

# さんSUNひろば

VOL.12

北海道看護協会 第3支部

## 札幌第3支部

## 看護過程と看護記録研修会

北海道看護協会札幌第三支部

支部研修会「看護過程と看護記録」H29年10月19、20日開催

毎年道内各地のかたに参加頂いている研修ですが、今年は定員40名のところ、57名の方が参加されました。1日目は北海道科学大学講師の武田かおり先生に講義して頂き、2日目は8名の助言者をお招きして、終日グループワークを実施しています。

武田先生の講義は本研修2回目となりますが、幅広い参加者層にも対応した、現場の実践に活用できる内容を、ユーモアを交えながらお話し頂けるため、時間もあっという間に感じるほど満足度の高い講義でした。

参加者は個人レベルの課題を持った若年層から、施設レベルの課題を持つ、管理者の方までいるため、グループワークでは様々な内容が話し合われていました。

看護過程、および看護記録に関して、苦手意識をお持ちの方は多いと認識しております。来年も多くの方に、ご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

札幌第3支部教育委員長  
大場 朝宏



北海道看護協会にて  
「看護過程と看護記録研修会」  
が行われました。

1日目は59名の方が参加され、  
札幌第3支部長大橋由美子講師  
より「看護の動向」について、  
北海道科学大学保健医療学部看護  
学科の武田かおり講師より  
「看護過程と看護記録」について  
の講義が行われました。

2日目は、57名の方が参加され  
グループワークが行われ、  
各グループで実際の患者事例を通し、  
多くの意見や情報交換ができ、今後の看護実践に活かす事ができる研修だったと思います。

参加された皆様、講師、助言者の皆様、お疲れ様でした。



札幌第3支部広報委員 西村 記

## 札幌4支部合同 保健師職能研修会

札幌4支部合同保健師職能研修会「依存症との闘い～今日も一日がんばれた！」

日時場所：平成29年10月21日（土）全日空ホテル

講師：北海道ダルク代表 森 亨（もりとおる）氏

アルコールや薬物、ギャンブルや食べ物等の依存症についての医療・福祉関連の講演や研修は、「当事者不在」の感がある。つまり支援者側の一方的見解が多い。今回覚醒剤依存症で北海道ダルク代表の森亨氏に講演を依頼したのは、看護職も依存症について理解していないことを実感したからだ。

森氏には、「生い立ち」「薬物を使った経緯」「薬物依存症と言われた時のこと」「薬物依存症とどのように付き合ってきたか」「ダルクに行くまで」「北海道ダルクの立ち上げから現在の状況」などをお話ししていただいた。



薬物依存で失うものは4つあって「自由（薬にコントロールされる）」  
「創造性（過去に囚われて新しいことができなくなる）」  
「個人の成長（情緒面が幼い）」  
「善意（自己中心的な生き方が身につき、周囲からの善意を受け取れず悪意に聞こえる）」というお話だった。  
「人からどう思われるかそればかり気にしていた」  
「薬が人とつながる道具だっ

た」「罰があると正直になれない」「正直さがないと克服できない」などのキーワードは、当事者だからこそ出るものだと感じた。

自身の母親の死を、悲しむのでなく「これから誰に薬の金をもらえばいいんだ」と思ったことを正直に告白していたのは衝撃だった。

我が国にはまだまだ「失敗や間違いが許される場所」がない。その一つの場所としてダルクを運営されていくと話されていた。

「ありのままの自分を受け入れてくれる場所の存在」「人からどう思われてもいいんだ」と自覚してからが始まりではないか。我々はまず「人として」それを認識しなくてはならないと思う。「病気」が対象なのでなく「生きる人」が対象なのだから。

質疑応答では、「アルコール依存症の親戚にどのように接したらよいか」の質問に対し、「本人に自分がやったこと責任を返すのがよい」「自助グループなどで仲間に繋がることできるとゆっくり歩いていけるのではないか」という回答をいただいた。

アンケートでは「知らない世界を知った」「目からうろこ」という内容があった。

札幌第3支部保健師職能委員長 町田丸美





「依存症との闘い～今日も一日がんばれた！」

今回の研修は  
札幌全日空ホテルで行われ、  
約100名の方が参加され  
ました。

当事者でもある講師の森亨氏  
は、自らの生き立ち～薬物依存～  
ダルクで活動する現在に至るま  
で、包み隠さず話して下さい、  
参加された方は皆森氏の講義  
内容に引き込まれていました。

予定していた2時間はあっという間に過ぎ、とても貴重な研修でした。



札幌第3支部広報委員 片山 記

## 看護師職能委員会主催 講演会

札幌第3支部看護師職能講演会「アドボケートとしてのナース –その役割と意義-」  
平成29年11月11日（土） 新さっぽろアーキシティホテル



この度、札幌第3支部 看護師  
職能委員会では、北海道医療大学  
名誉教授の石垣靖子先生を  
お招きし講演会を開催しました。

看護・介護をさせていただく私  
達は、患者様とご家族様の思いを  
受け止めて側に寄り添い、  
意思を尊重出来るように細やか  
な配慮を心がけていますが、  
倫理的配慮という面で、今改めて

考える機会となることを願い講演をして頂きました。

演題は「アドボケートとしてのナース –その役割と意義-」です。

石垣先生のお話から、人間尊重は「本人の自律を尊重する」「自己決定を尊重する」を含む。自律は大事、人は理性だけで行動するわけではない。理性的な選択ができなくなった人が、自分の気持ちを全身で表しているとき、それを受け止め、尊重して、どう応えるかを考える。まさに倫理の問題。相手の意思を尊重する（相手の気持ち・存在を尊重することを含む）＝ケアという姿勢で相手に向き合い、寄り添うこと。

アドボケート（擁護者・代弁者）として、患者様の最期の最期までその人の内にある健康な力や残された機能をよく見定め、その力を充分に使って生を全うできるように、生活課程を整えていくのがナースの役割と話されていました。

札幌第3支部看護師職能委員長 根本ひとみ

H29年11月11日

看護師職能研修として、「アドボケートとしてのナース その役割と意義」をテーマにした石垣靖子先生の講演を聞かせていただきました。

現在の超高齢社会において、私たち看護師が行うべき看護とはなんなのかを考えさせられる内容であったと思います。

ターミナル期の治療方針を「自然にまかせる」と看護師には言っても、医師から治療が必要だと言われてしまえば「医師にお任せします」と言ってしまう患者・家族も多く、患者の気持ちを「代弁する」ということの大切さをあらためて感じました。



札幌第3支部広報委員 田中 記

### 編集後記

今年も早いもので間もなく終わりを迎えますね。

今年度の[さんSUNひろば]も今回号で終了です。拝読して下さいありがとうございます。

新年も皆様にとって良い年でありますように・・・

広報委員 S.K 記

